

実話を元に学生と共に創作したデジタル紙芝居「まおちゃんの新しい靴」が国内外で披露され、命の大切さを伝えていきます。

この活動は、私が岡山県警の犯罪被害者等カウンセリングアドバイザーとして、犯罪被害者支援室に当時おられた藤原佐千子警部補と出会ったことから始まりました。犯罪被害者支援について世の中の人々に広く知ってもらうためにはどうすればいいか。模索する中で学生たちが「自分たちにしかできないことがある」と、岡山県警を事務局とする全国初の犯罪被害者支援大学生ボランティア連絡会「あした彩」を2017年に結成し、紙芝居の上演を活動に加えました。現在では岡山北西

学生と共に

ロータリークラブの皆さま、その他多くの方々のご協力の下、活動の幅を広げていきます。

紙芝居の制作は私のゼミの学生だった高谷麻衣さんが中心となりました。京都府亀岡市で12年、無免許の少年の車が集団登校中の児童らの列に突っ込

一日一題

み、10人が死傷する痛ましい事故がありました。後に当時7歳の次女真緒さんを亡くした小谷真樹さんの講演を聞いた高谷さんが「命の大切さを多くの人に知ってもらいたい」と立ち上がった動き出しました。

高谷さんは「あした彩」に所属する

山陽学園大准教授 上地 玲子

山陽学園大の「ボランティアサークルあい」の部長を務めていたので、学内で協力者を募り、藤原警部補とも相談してデジタル紙芝居を作りました。そして学生の「世界中の人に伝えたい」という願いから英訳付きのデータも作成しました。現在、国内のみならず、海外からも問い合わせがあり、活用していただいております。

小谷さんは国内外でデジタル紙芝居が使われていることに「真緒は俺も行ったことがない所を旅している」と話されています。命の大切さを世界中の人々の心に届けられるよう、これからも学生と共に活動を広げていきたいと思っています。

2024・1・30